

西蒲区の歴史を知る

いにしへの時代から、人々の生活が連綿と続く西蒲の地。まちのあちらこちらで、歴史の重みを感じます。



大沢遺跡出土の縄文土器

縄文時代などの遺跡

角田山の東麓を中心とする地域には大小140余りの遺跡が点在し、この地に旧石器・縄文時代から人々の営みがあったことを伝えています。遺跡からは石器、土器や木製品などが多数出土しています。それらの一部は巻郷土資料館に展示されています。



山谷古墳

角田山の南麓、福井の丘陵尾根にある、日本海側北端の前方後方墳。自然地形を利用して築造されていて、管玉やガラス小玉が出土しました。4世紀中頃の造営と推定され、この地を支配した首長の墓であると考えられています。



菅蒲塚古墳

竹野町・金仙寺境内にある菅蒲塚古墳は、県内では最大クラスの前方後円墳。当時の第一級の宝器、青銅の「だ龍鏡」が出土したことから、高志深江国（蒲原地方）の支配者の墳墓と考えられています。名称は、源頼政の側室・あやめ御前に由来。国の指定史跡です。



天神山城址

標高234.5mの天神山に残る、山城の跡。平安時代後期である仁平3年（1153）に源頼政の弟の小国頼行が築城したものです。後年、上杉家家臣の直江兼統の弟、大国（小国）実頼が城主を務め、慶長3年（1598）に上杉景勝の会津移封に際し、廃城されました。



曾根代官所

現在の曾根小学校地内に、元和6年（1620）から慶応4年（1868）までの約250年間、長岡藩の代官所が置かれていました。正式には長岡藩曾根組役所といい、穀倉地帯の要として、近隣の行政、司法、徴税をつかさどっていました。



三根山藩址

戊辰戦争に破れて窮状にあった長岡藩が、見舞の百俵の米を学校設立に使ったことで知られる米百俵の故事。その米を送ったのが、当時、現在の巻・岩室地区の一部を治めていた三根山藩主である牧野忠泰です。三根山藩庁跡には「三根山藩址の碑」「米百俵の碑」などが建てられています。

武将の時代

天神山城は岩室温泉と石瀬の境にある中世の山城で、小国氏が城主でした。城は、標高234.5メートルの山の地形を利用して、南北に走る尾根に大小の空壕が配され、その頂上に本丸があります。

小国氏は鎌倉時代初め、小国保（長岡市小国町）の地頭となり、南北朝時代には天神山城を拠点に南朝方の武将として転戦活躍しました。南朝が滅んだあともなお勢力をもち、やがて上杉氏の台頭とともにその配下となります。

「御館の乱」では上杉景勝方につきました

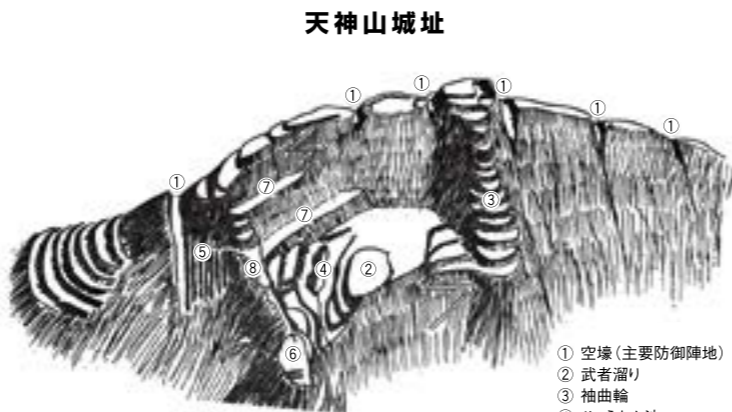
がこの乱をめぐる内紛があり戦後、景勝は家臣の樋口与七（上杉家の家臣・直江兼統の弟）に小国家を継がせました。これが小国実頼です。

知行高は上杉家中では兄・兼統に次ぐ屈指の大身で、新発田攻めの戦勝の賀使として京都の聚楽第で秀吉に謁しました。その際、景勝の命により小国を大国と改め、ついで従五位下、但馬守に任じられました。慶長3年（1598）、秀吉の命による上杉氏の移封に従って、大国氏も会津に移り、天神山城は廃城となったのです。

■大国 実頼【おおくに さねより】

直江兼統の弟。永禄5年（1562）、樋口兼豊の次男として坂戸城下で生まれる。幼名は与七。天正10年（1582）、上杉景勝の命で天神山城主・小国家を継いだ。これは兼統の意向ともいう。天正15年（1587）、実頼は景勝の命で上洛し、その際に大国と改姓した。

京で連歌を学び、上杉家中で一番の歌の名手として知られる。景勝の会津移封の際には南山城（鳴山城・福島県南会津町）の城代、景勝の米沢移封時には高島城（山形県高島町）の城代となる。慶長9年（1604）、兼統の命で京に赴いた西山庄左衛門（旧巻城主）らを切り、高野山（和歌山県）に逃れる。兼統亡き後、ひそかに出羽に戻り、元和8年（1622）死去。



- ① 空壕（主要防御障地）
- ② 武者溜り
- ③ 袖曲輪
- ④ ひょうたん池
- ⑤ 欵形阻塞
- ⑥ 物見台
- ⑦ 腰郭
- ⑧ 土塁・石塁

天神山の地形を巧みに利用した堅固な山城で、中世の城郭跡がほぼ完全な状態で残っている。

天神山城址（伊藤正一氏原図）

直江兼統の弟、 大国（小国）実頼が城主を務めた

天神山城

「天地人」のふるさと 新潟市西蒲区

